皆龍寺報 とびら

2022年１月１日（土）発行
第42号
真宗大谷派　皆龍寺
山形市大字門伝100
TEL 023(643)3037
http://kairyuji.mydns.jp/

二十一世紀という時代（十六）

現代の闇

毎日何気なくお勤めしている『正信偈（同朋奉賛式）』の最初の「ご和讃」の

法身の光輪きわもなく　世の盲冥をてらすなり

が、心に浮かんで参ります。如来の光明は世の盲冥という闇を照らし出してくださいます、と讃じられております。

「盲」とは、自分自らが目をつむって見えない闇。「冥」は、目をしっかり開けても見えない闇。「盲」という闇は、目を開けさえすれば、「ああ、そうだったのか」と身の事実・現実の姿に気がつかされることで、その闇は破られていきます。でも「冥」は、いくら目を開いても全く見えない未来という闇です。私たちは、現実に目をふさぎ、その視点を未来に追い求め、虚構を作り出しているのではないでしょうか。これが、私たち現代社会を覆っている闇ではないかと思うのです。

私たちは、未来に希望を掲げそれに向かって突進していきます。親も子も共々に「何々になりたい」「何々にさせたい」と一生懸命になっていきます。でもなれるかどうかは誰にもわかりません。それは、努力が足りないとか能力がないということだけの問題じゃなく、その途中にどんな業縁を受けてどうなっていくか誰にもわからないということなのです。

そうしますと、「わからないから希望が持てるんだ」といわれる方もおられると思います。それはごもっともです。でも、それを「冥」（闇）というのはなぜでしょう。わたしは、そこに闇の深さを思わずにはおれません。と申しますのは、状況がどうなるかわからないという現象面だけではなくて、自分はなぜその仕事をしたいのか、その本質的な意味さえも見えてこないからです。

今、この現代社会において、経済の停滞、気象変動や災害発生などの状況の下で、私達は未来に向かって歩んでいます。でも、それはなんの為なのか、どのような社会になりたいのか、私たち人間はどうなりたいのか、全くわかっておりません。それが未来という闇の深さなのでしょう。

今日ほど光に対して無感覚な時代はない。光があるのが当然だと思っている。でも、実際にあるのは闇だけだ。いくら二十四時間煌々と明かりをつけていても、闇はむしろその明かりのところへと群がってくる。そして、明るくすればするほど、闇は一層深くなっていく。

私たちは、〝今〟という現実をしっかり目を開いて見なければなりません。それもただ現象面ばかりではなく、その本質をも見定めていかなければなりません。本質を見定めるということは、如来の本願に巡り会うこと。本願という遙かに遠い〝なつかしさ〟を感ずる時、そのことによって、私たちの本質が、私たちの存在が照らし出される、そう思えてならないのです。

住職　記

2022年

皆龍寺年間行事

（コロナ禍の状況によって中止もあり得ますのでご了承ください）

1月25日	（11時～13時）	おやすみ	
2月25日	（11時～13時）	おやすみ	
3月25日	（11時～13時）	おやすみ	
4月13日	（10時～15時）	永代経	【お当番　新屋敷・柏倉組】
5月25日	（11時～13時）	お講	【お当番　悪戸組】
6月25日	（11時～13時）	お講	【お当番　門伝上中組】
7月25日	（11時～13時）	お講	【お当番　皆龍寺】
8月13～15日		盂蘭盆会	
9月25日	（11時～13時）	お講	【お当番　門伝下新屋敷組】
10月25日	（11時～13時）	お講	【お当番　荻ノ窪組】
11月13日	（10時～15時）	報恩講	【お当番　村木沢組】
11月　～　12月		お取越	（思案中）
12月31日		除夜の鐘　修正会	

後記

私事ではありますが、昨年は、ワクチンの副反応や、尿路結石を経験しました。苦しい思いをすると死を間近に感じることがわかりました。普段死を意識しないのはお医者さんが何とかしてくれるだろうという心があるからなのだと思います。医療従事者の方々には頭の下がる思いです。今年こそは、コロナウイルスが終息するといいですね。

副住職　記

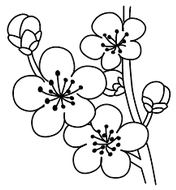
真宗の教え 20

仏教行事に「先祖供養」というものがある。しかし真宗で「先祖供養」は、追善供養ではない。追善供養とは、先祖がまだ成仏してないので善を追加して成仏してください、とする供養である。真宗は既に成仏しているので追善する必要はない。それでは何供養というのか。それは仏供養という。

仏供養とは仏のご恩を戴き、仏を荘厳する供養である。その仏供養には花供養とか香供養とか燈明供養、供物（物供養）などがあります。それは私たちからではなく、仏から私たちに授けられる供養です。ですから花も仏さまのほうに向けるのではなく、わたしたちのほうに向けて供えられます。供物も私たちが頂戴するのです。

でももっと大事な供養があります。私たちが先祖を守る護持供養です。それは佛に成った先祖が私たちを護持しているのです。先祖が私たちを護持する心を頂戴するという事です。それは、私達が未来の子孫を護持する心を戴いた、という事を意味します。そして私たちが未来の子孫を護持する心が芽生えた時、わたしたちも仏と呼ばれる存在となるのでありましょう。

住職　記



ご依頼金遅滞のお詫び

皆様方より、電話や世話人を通して護持費のご心配を頂戴いたしました。誠に申し訳ございません。また皆龍寺を思ってくださっているお心を頂戴し、感謝にたえない気持ちです。

会計期間は過ぎておりますが、コロナ関係等で進まず、新年度の予算組も出来上がっておりません。一月中には、皆様にご依頼できるように進めておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

住職

皆龍寺サンガスクール

坊守記

今年もコロナ下で工夫をしながらではありましたが、例年通り行事を行うことができました。

特に〝子ども報恩講〟では、本山から「子ども達ひとりひとりの写真を本山の廊下に貼ることによって本山の子ども報恩講に参列してほしい。」「本山子ども報恩講をユーチューブで配信する。」という旨の連絡が入りました。山形に居ながらユーチューブ配信を皆で観ることによって、皆龍寺サンガスクールの報恩講を勤められることはとてもありがたいことと思い賛同しました。当日、当寺では幼児から大学生、おばあちゃんも含め、お母さんなど総勢５０名が参加しました。本山のお勤めに合わせ正信偈を唱和し、御影堂のお荘厳の前で大谷中学・高等学校（京都）校長を務めたれた真城義麿先生がお話され、配信で御法話を聞きました。その後おいしい悪戸いもの芋煮を皆でいただきました。午後からは、新清堂の丹野先生に上生菓子の作り方を教えてもらい、それぞれが椿や柿の上生菓子を作り、お土産としました。とても有意義な報恩講となったと思います。

皆龍寺 女のつどい

今年もコロナの流行の為、総会は報恩講前まで延期とし、楽しみにしていた会津訪問はまたまた中止となってしまいました。

それでもおみがきをしていただいたり、銀杏の皮剥きや銀杏ふかしを作って頂いたり、大変ご苦労をおかけして、無事永代経・報恩講を勤めることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。

坊守記